

ポスターB-5

ポスター発表(実践)

高校におけるJSLカリキュラムの試み —先行学習～在籍授業(入り込み)～補充授業 内容重視の指導—

加藤恵美子 (兵庫県立神戸甲北高等学校 臨時講師)

1. 実践の場の特徴

筆者の勤務校は全日制公立高校で平成28年度から始まった「外国人生徒特別選抜入試」のモデル校である。今回の実践は1年次の「家庭基礎」(2単位 必修科目)の先行学習、在籍学級(入り込み)、補充授業での3年間の取り組みである。

2. 実践の目標

教科のJSLで日本語力および日本の文化的背景を理解し、日本での日常生活に必要な知識を身に着けることを目標としている。

3. 具体的な実践の内容とその過程

3-1. 「家庭基礎」の実践、成果と課題 (片野 綾子)

1年次の「家庭基礎」における全体参加の授業において授業中に使用するプリントを授業前にTT担当者に事前に渡し、学習言語および未習語句の調べ学習のフォローをしてもらっている。

3-2. 先行学習の実践、成果と課題

1年目から授業中の配布プリントから主にN4レベル程度の日本語力ではわからない語彙や家庭科特有の「学習言語/学習用語」を中心に語彙プリントを作成し、宿題として配布した。

3-3. 入り込み(TT)の実践、成果と課題

1年目はTTはなく、先行学習と補充授業だけであった。その必要性から2年目は生徒の母語言語支援員が、3年目は筆者が担当した。

3-4. 補充授業の実践、成果と課題

授業が行われた日の放課後と定期考査前などに主に行った。授業中では終えることができなかったプリント等提出物を一緒に作成し、生徒からの質問や授業内での不明点、内容理解が不十分の部分に関して補充した。

4. 結果と考察

考査については特別な配慮なしに実施をした。改善点として考査の分量についても検討したい。TT担当者は母語対応の場合が多いが、母語ではなく簡単な日本語で行うことで生徒の日本語力のスキルを高めることにも役立った。教員との連携が活動をよりうまくできた要因であると感じた。事前に語彙調べや授業後や定期考査前に補充授業を行うことで、より内容について理解を深めることができた。

付記 今回の実践における教科との連携を行ってくださった本校片野綾子先生および家庭科教員、発表に関して快諾してくださった学校関係者に心より感謝申し上げます。